

平成28年度

事務事業評価表 A (平成27年度の実績評価)

記入年月日  
平成 28 年 3 月 27 日

Table with columns for 事務事業名, 事業区分, 担当, 政策体系, 予算科目, and 法令根拠. Includes details for '真壁石材協同組合運営助成事業' and '商工業の振興'.

(Do) 1. 事務事業の現状把握 (その1)

Table with 2 columns: ①事務事業の概要 (真壁石材協同組合への運営費助成金の支出) and ②担当者が行う業務の内容・やり方・手順 (運営費補助金の支出).

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

Table with 5 columns: ①手段 (担当者), ④活動指標 (活動量), ②対象 (誰), ⑤対象指標 (対象の大きさ), ③意図 (この事業によって対象をどう変えるのか), ⑥成果指標 (対象における意図の達成度を表す指標). Includes data for '真壁石材協同組合'.

(3) 投入量 (事業費) の推移

Table showing input amounts for 26, 27, 28, 29, and 30 years. Includes categories like 国庫支出金, 事業費計 (A), 人件費, and トータルコスト (A)+(B).

事業費の内訳

Table showing the breakdown of business expenses for 27 and 28 years, including 19 負担金補助及び交付金 and a total of 295.

(4) 当該年度の実施内容

Table with 4 columns for 28, 29, and 30 years of implementation content. Includes a list of main activities like '市長マニフェスト' and '合併建設計画事業'.

事務事業名	真壁石材協同組合運営助成事業	事務事業No.	50203000539	所属課	商工観光課
-------	----------------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握(その2)

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?	
<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和2年に小舗石の共同販売のために羽黒、稲田などの業者を含めて、20余名で前身となる常陸舗石商業組合を設立された。</li> <li>昭和33年に、業界の結束と統一を図るとともに、技術の向上、設備の近代化、経営の合理化等組合員の経営を安定させるため、組合員107名で真壁石材協同組合が設立された。</li> <li>旧真壁町から運営費補助金を支出しており、合併後も引き続き運営費補助金を助成している。</li> <li>石材業界の不況にともない、組合員数が毎年減少している。</li> </ul>	
(6) この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者)からどんな意見や要望が寄せられているか?	
<ul style="list-style-type: none"> <li>市内には石材業関係者が多く、今後も石材組合の運営費に対して助成を継続してほしいとの要望がある。</li> </ul>	
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	
	真壁の石と海外製品・他産地産石材の差別化を図るような新たな事業を展開することが必要である。

【See】 2. 評価の部 \*原則は事前評価。

評価項目

目的 妥当性	①政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか?意図することが結果に結びついているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 結びついている 真壁石材協同組合の活動は石材業の振興や石製品のPRにつながるため、市の政策体系に結びついている。
	②公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか?税金を投入して、達成する目的か?) (法定受託事業はその名称)	<input type="checkbox"/> 石材業は桜川市の地場産業であり、組合への助成を通じて石材業の振興を図ることは妥当である。
	③成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある 石材業界は製造、小売とも廉価な海外製品との競争が厳しい状況である。組合の活動を通してPRや共同事業を行い、真壁産石材の知名度向上をはかることで石材業が活性化する余地はある。
有効性	④廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?)	<input checked="" type="checkbox"/> 影響有 石材業を取り巻く環境が厳しい状況であるため、真壁石材協同組合も会員数及び会費収入も減少している。このような状況で運営補助金を廃止した場合、真壁石材協同組合の活動が縮小され、石材業の活性化に影響がある。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか?(市以外の取り組みも含む) (他に手段がある場合) →)	<input checked="" type="checkbox"/> 連携ができる 真壁石と羽黒石のブランドは違うが、羽黒石材商工業協同組合との協力・連携することはできる。
効率性	⑥事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか?やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか?)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない 石材業界が厳しい状況であるため、会員からの会費や負担金が減少しており、市からの助成を削減すると組合の活動に影響がある。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっているか?)	<input checked="" type="checkbox"/> 公正・公平である 石材事業者の組合に対する補助金であり適正である。また、受益者である石材組合員からも会費を徴収し、事業費として充てている。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																								
①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	→	市内の石材業界は10年以上前から廉価な海外製品との競争により、厳しい状況にあるが、組合として状況を打開するような事業はなかなか見つけられない状況である																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																								
<input type="checkbox"/> 終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 → <input checked="" type="checkbox"/> 改革改善を行う → <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 → <input type="checkbox"/> 現状維持		(複数回答可) <input type="checkbox"/> 目的の再設定 <input type="checkbox"/> 効率性の改善 <input checked="" type="checkbox"/> 有効性の改善 <input type="checkbox"/> 公平性の改善 <input type="checkbox"/> 統廃合ができる <input checked="" type="checkbox"/> 連携ができる																								
(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下			×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上		○																							
	維持			×																						
	低下			×																						
海外製品に押され、競争力を失って廃業・低迷する事業者が増えており、業界として苦しい状況である。また、事業者の高齢化が進んでおり、後継者の確保にも問題を抱えている。		(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 コスト削減優先度評価結果																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 <input type="checkbox"/> A: 継続(現状維持)      C: 終了、廃止、休止 <input type="checkbox"/> B: 継続(改革改善を行う)      D: 2次評価へ提出	確認欄 <input type="checkbox"/>